

シンポジウム

甦る中村弥六 布引丸事件

開会趣旨挨拶

高綱博文（中村弥六研究会代表）

中村弥六研究会

- **研究会の設立**：2017年4月
- **研究会の目的**：フィリピン独立運動と中国革命を支援した明治期の政治家中村弥六の未公開史料を整理・公開し、中村の政治思想と行動を歴史学的に検証する。
- **科研費事業**：2021～23年度「グローバルヒストリーの中のアジア主義者 中村弥六—未公開資料に基づく基礎的研究」（研究代表趙軍）→研究成果の社会的還元→本日のシンポジウムの開催。

中村弥六と布引丸事件

- **中村弥六**（1854～1929年）：高遠藩藩儒の家に生まれ、ドイツ留学し、日本初の林学博士。東京農林学校教授、司法次官等を歴任。1890年国会開設を機に衆議院議員に立候補。中村は長野六区から出馬し当選、衆議院議員となり、1899年に起きた布引丸事件、翌年の孫文指導の惠州蜂起に関係し、革命資金を横領したとして憲政本党を除名されたが、その後も議員活動を1917年まで継続した。
- **布引丸事件**：中村弥六は1899年7月21日、フィリピン革命運動支援のため武器弾薬と日本人志士・軍人を載せた布引丸が東シナ海で沈没した布引丸事件に関与したが、革命資金横領の嫌疑を掛けられ、日本政界を揺るがす一大スキャンダルに巻き込まれた。

「アジア主義者」として中村弥六

- 「**アジア主義**」：19～20世紀転換期、欧米列強の侵略への抵抗とアジアとの連帯を目指す思潮。
- 「**アジア主義者**」 **中村弥六の行動**：日本人「アジア主義者」犬養毅、梅屋庄吉、宮崎滔天等と共に、アジアの革命家マリアーノ・ポンセ、孫文等に協力してフィリピン独立革命や中国革命を支援した。
 - **中村弥六の評価**：フィリピン革命軍から預かった資金を横領したフィリピン独立運動や孫文の惠州蜂起を挫折させた「背徳漢」として否定的な評価が定着している。
 - **私たちの試み**：高遠に残された中村に関する原史料等により中村弥六の「アジア主義者」としての実像に接近する。

ご清聴のお願い

- 中村弥六研究会の初めてのシンポジウムを中村の郷里高遠町で開催できることを大きな喜びとしています。
- 最後までご清聴をお願い申し上げます。